

# いいだ未来デザイン2028(次期総合計画)の進行管理方法(案)の概要

## 1 「いいだ未来デザイン2028(次期総合計画)」(原案)の体系

12年後の都市像・人口ビジョン  
 キャッチフレーズ(未定)「都市 飯田」  
 未来ビジョン

### 「目指すまちの姿」

リニアがもたらす大交流時代に、多様性が輝き、世界に届く価値をみんなでつくる



### 「人口ビジョン」

「定住人口96,000人、滞在人口156,000人」を目指す

### 「飯田のまちづくりの姿勢」

飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢

変化の激しい時代を生き抜く力の源泉「学び」

グローバル時代に魅力を放つ価値の創造「交流」

新たな課題を解決し時代を切り拓く「共感」

地域・コミュニティ   事業者   団体・NPO   市民一人ひとり   行政

方針

(目標値)

方針

(目標値)

方針

(目標値)

基本構想(未来ビジョン・人口ビジョン)

基本的方向

計画群

地域経済活性化プログラム

地域健康ケア計画

新すくすくプラン

21'いいだ環境プラン

教育振興基本計画

## 2 新たな進行管理方法に必要な視点

### 世界に届く価値をみんなでつくる視点

- ・これまで飯田は、地域に根付く多様性の中で育まれた価値を発展させ、全国或いは世界まで通じる文化にしてきました。
- ・私たちが当たり前と感じる暮らしは、移りゆく時代の変化を自らの力にして培った個性的な文化に彩られ、魅力ある暮らしの姿を表しています。
- ・そんな飯田のまちの姿は、時代の流れとともに光を放ち、世界に届く価値となります。
- ・その価値の創造のためには、各主体が乗り越えるべき課題を自ら発見し、それぞれが取り組むべき役割を追求すること、そして各主体が取り組んだ成果を共有し、共創的な関係を築くような「当事者意識」を持ち続けることが重要です。

### 現場や地域の底力を持ち上げる視点

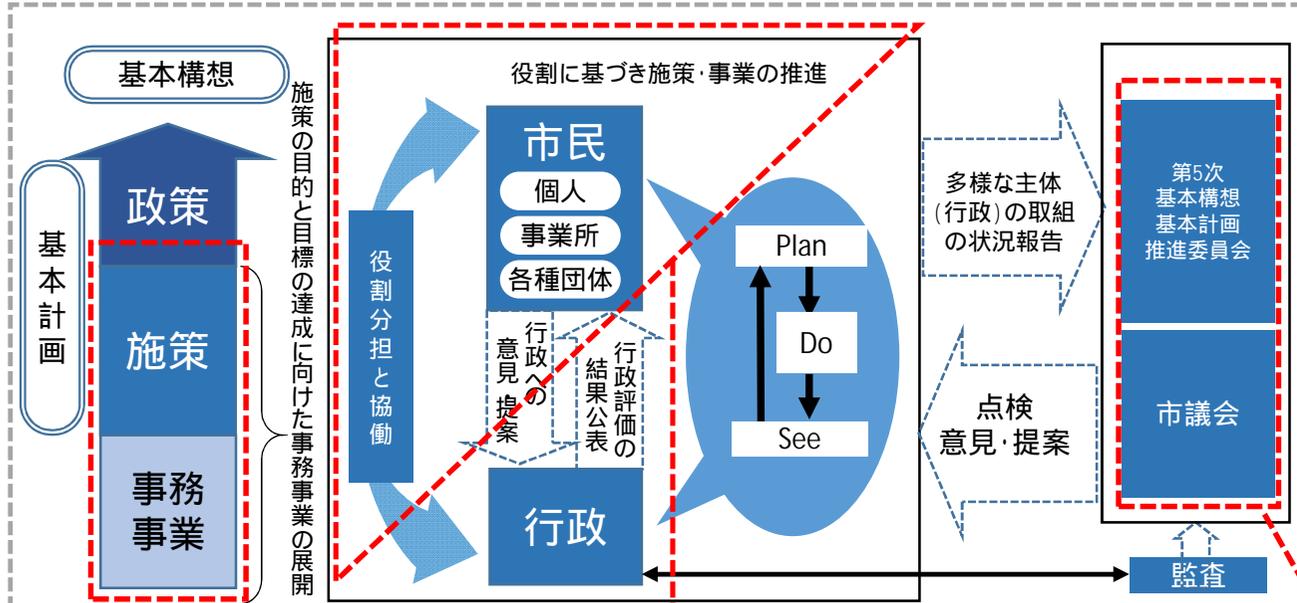
- ・未来ビジョンの実現に向けて取り組む「飯田のまちづくりの姿勢」は、多様な主体の活躍で未来を共につくる姿です。
- ・多様な主体と連携を密にする「現場主義」を大切に、現場や地域の力を持ち上げることで、地域全体が継続的に向上(工夫の改革)することができます。

新たな進行管理を検討する

### 3 第5次基本構想基本計画の進行管理方法の特徴

- ・施策や事務事業を細分化し、Plan(計画) - Do(実行) - See(評価)のマネジメントサイクルで改革改善
- ・政策・施策を5年間で体系化し、具体的な目標(指標)を設定
- ・多様な主体がそれぞれの役割を展開
- ・市民、議会の第三者評価による点検と意見・提言

第5次基本構想基本計画の体系及び進行管理方法のイメージと課題



#### 細分化した事務事業

木を見て、森を見ず → 事務事業と予算要求の整合に注意が向いている状態

#### 固定化された体系

状況の変化 → 「目標が無くなっている」「指標が変わっている」「手法が変わっている」

#### 役割分担と協働

ムトス指標 → 的確な分析、把握、市民の活動や成果の表現が不十分



### 4 新たな進行管理に向けての課題

#### 共創型の進行管理

##### 細分化した施策・事務事業

- ・目標(指標)達成に向けたマネジメントを行う習慣が定着した効果の一方で、細分化した事務事業に着目し、大きな目標を目指す議論が不足

##### 固定化された体系

- ・政策・施策体系による目的を明確化する効果の一方で、社会経済情勢の変化への柔軟な対応が困難

##### 役割分担と協働の視点

- ・市民と行政の「役割分担と協働の視点」としてムトス指標を設定したが、ムトス指標の分析・把握や、取組の状況を拾い上げて表現することが不十分

#### 評価の労力軽減

- ・市民、議会による施策・事務事業評価において、すべての行政活動を表すために公表する情報量が多く、点検に要する作業に膨大な時間と労力を投入

#### 市民・議会による評価



42 施策 約800 事業 → 膨大な時間と労力

- ・従来型の計画づくりでは、体系的に整理した政策・施策の良し悪しに注力し、場合によっては許容を超えた計画になっていることがないか。
- ・計画段階では目指す姿の実現のために完成された施策等であっても、時代の変化によって短期間で形骸化してしまうことがないか。
- ・精緻な計画で無くとも、常に今より良い状態を創り出すため、手法の変更が必要なときは自由に出し入れできることで、変化に対応できるのではないか。

## 5 新たな進行管理方法に向けての課題解決(ねらい)

### 共創型の進行管理

#### ボトムアップ型の進行管理

#### 細分化した施策・事務事業

・現場や、現場と関係する多様な主体が共有する目標(ビジョン・目標値)に向かって、それぞれの発想を議論して、行動に結びつけます。

#### バスケット方式の戦略計画

#### 固定化された体系

・変化に柔軟に対応できるよう、体系化された指標値と政策・施策を固定化せず、「戦略計画(バスケット)」として構成する事業の選択(束)や内容(組み合わせ)を、毎年、組み直せるようにします。

#### 共有価値創造型の進行管理

#### 役割分担と協働

・基本的方向の実現に向けて、多様な主体との協働による現場での発想や行動が効果的に展開できているか評価するために、多様な主体が取り組む姿を「見える化」し、お互いの取組を確認しあえるようにします。そのことにより、地域内の横のつながりを強めたり、お互いの活動に協力しあったりする共創的な関係が創られます。

### 評価の労力軽減

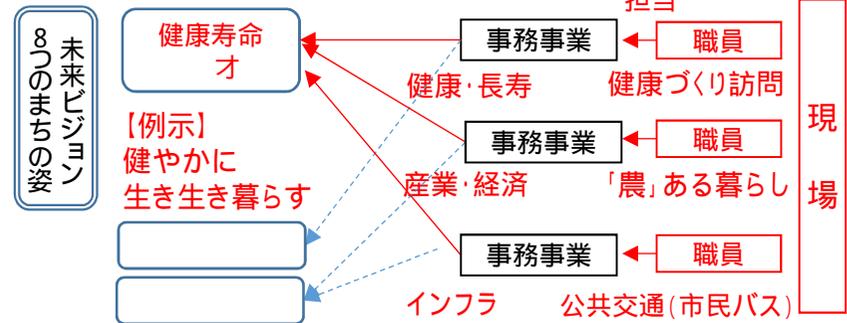
#### 市民・議会による評価方法

・これまでは42施策、約800の事務事業ごとに細分化したシートに対して膨大な労力と時間を投入して評価してきましたが、新たな進行管理では、より大きな目標である戦略計画ごとの進行管理とすることにより、労力と時間を軽減できるとともに、総合的な評価が可能になります。

・また事務事業の評価においては、主要マネジメントシステム(「行政評価」「予算・決算」「目標管理」「ISO」)を統合した新たな事務事業進行管理表を活用し、効果的、効率的に予算、決算の審査を行えるようにします。

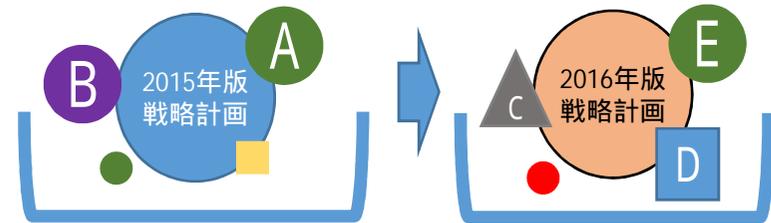
ビジョン・目標値の実現のために、現場の感覚で、望ましい未来に向かって事業を組み立てていくイメージ

#### ボトムアップ型の進行管理



戦略計画を構成する事務事業(束)をカゴ(バスケット)に集め、毎年、組み直すイメージ

#### バスケット方式の戦略計画



「共有価値創造型」の進行管理のイメージ (多様な主体の活躍が見える化する)

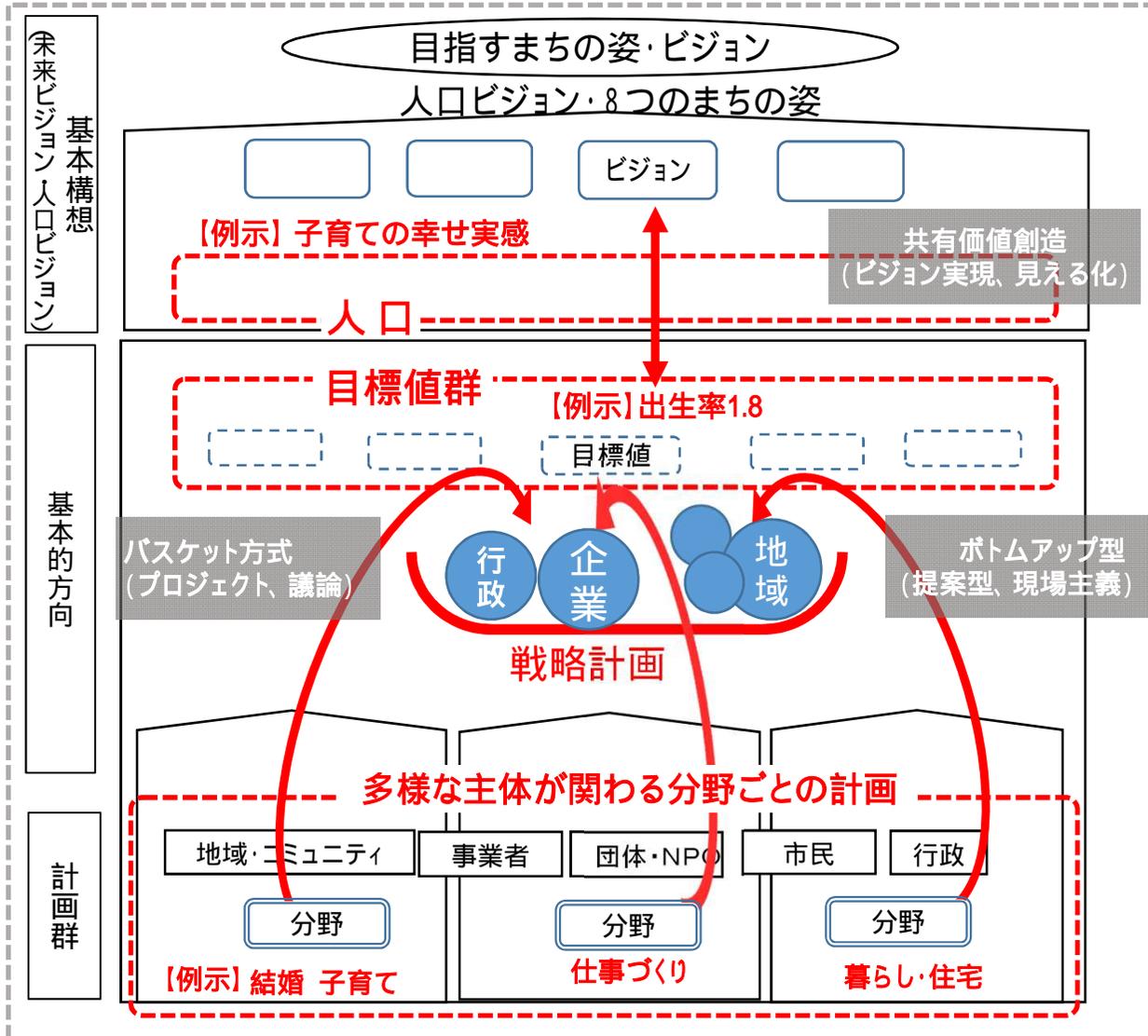
#### 共有価値創造型の進行管理 (「行政評価の視点」含む。)

各主体の取組の発表、情報発信、イベント等あらゆる場面を評価と位置づける



## 6 いいだ未来デザイン2028の進行管理方法の体系

- a 未来ビジョンの実現を最上位として、その達成を支える人口を「12年後」の目標に設定
- b 8つの姿の実現に向けて4年間で重点的に取り組むべき基本的方向として、目標値群を設定
- c 基本的方向（目標値）の実現に向けて、分野を越え、共創的な取組を「戦略計画」として策定し、内容は毎年見直しを行う。



## 7 新たな評価手法

- ・基本的方向の実現に向けた多様な主体による取組を「見える化」します。
- ・「行政評価」「予算・決算」「目標管理」「ISO」を統合した事務事業進行管理表により、予算・決算審査を「わかりやす化」します。

